



株式会社セキュア（証券コード：4264）

株式会社 TOUCH TO GOのグループインについて

< AI Store × TTGでリテールDX市場での圧倒的No.1を目指す >

SECURE



AI Store x TTGのタッグでリテールDX市場での圧倒的No.1を目指す

SECURE

両社のタッグにより、様々な規模の業種へアプローチ
無人化/省人化店舗の幅広い普及を目指す

SECURE AI STORE LAB 2.0

高単価×大規模

完全レジレス

- ・セキュリティ分野で培ったテクノロジー
- ・全国展開を可能とするサポート力
- ・店舗の安全・運用・収益化を総合的に支援

ターゲット

レジ

強み

TOUCH TO GO

低単価×小規模

多様な無人決済ソリューション
(現金やポイントも可)

- ・累計250店超の豊富な導入実績
- ・高い実用性と市場適応力
- ・カスタマイズ性の高い商品ラインナップ



SECURE AI STORE2.0



JR高輪ゲートウェイ駅「TOUCH TO GO」

01

会社概要

01. 会社概要

02. TOUCH TO GOのグループイン

03. AI Store事業に関する成長戦略

04. Appendix

基礎情報

| | |
|--------|---|
| 会社名 | 株式会社セキュア（英文表記：SECURE, INC.） |
| 代表者 | 代表取締役 谷口辰成 |
| 設立 | 2002年10月（第2創業 2010年） |
| 資本金 | 1,282,493,500円（2025年12月末現在） |
| 本社 | 〒163-0220 東京都新宿区西新宿二丁目6-1 新宿住友ビル20F |
| 子会社 | SECURE KOREA, Inc.（当社100%） 株式会社ジェイ・ティー・エヌ（当社100%） 株式会社メディアシステム（当社100%） |
| 主な事業内容 | セキュリティソリューション事業 |
| 事業許可等 | 【一般建設業】 国土交通大臣許可（般-6）第27739号 建設業の種類 電気工事業 国土交通大臣許可（般-6）第27739号 建設業の種類 電気通信工事業 |
| 所属団体 | 一般社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会 一般社団法人 日本ディープラーニング協会 |

社員数



2025年12月末時点

役職員数 **224名**※（連結）

※派遣・出向社員等含む

拠点



Mission

Make place Secure
Upgrade place Smart



SECURE

Vision

AI x セキュリティで
新しい価値を創る



AI

(画像認識)



セキュリティ

「ソフト」と「ハード」で構成された物理セキュリティシステムを提供
顧客の求めるセキュリティニーズに応じて、AI（画像認識）を活用した付加価値を実装



※AI未実装のサービスも存在します

3つのカテゴリーでサービスを提供

主に「オフィス・工場・商業施設」などに対してセキュリティソリューションを展開

| 1 | SECURE AC 入退室管理システム Access Control | 2 | SECURE VS 監視カメラシステム Video Surveillance | 3 | SECURE Analytics 画像解析サービス/その他 |
|--|---|---|---|-----------------------|----------------------------------|
|  |  |  | | | |
| 提供サービス | <p>* 主要商品</p> <div> 入退室管理システム SECURE AC (画像認識実装)</div> <div> SECURE AI Office Base (画像認識実装)</div> | <p>* 主要商品</p> <div> 監視カメラシステム SECURE VS</div> <div> GUARD-FORCE</div> <div> SECURE VS Cloud (画像認識実装)</div> | <p>* 主要商品</p> <div> 混雑COUNT (画像認識実装)</div> <div> vem count (画像認識実装)</div> | | |
| | FY2025 : 1,857 百万円 | FY2025 : 4,178 百万円 | FY2025 : 242 百万円 | | |
| | 売上構成比 | 売上構成比率 : 27.2 % | 売上構成比率 : 61.1 % | 売上構成比率 : 3.5 % | |

— 3つの成長戦略

1 既存ビジネス

パートナーの深堀・発掘

+

AI強化・SaaS強化

↓
継続成長
収益力UP

2つ目の成長戦略を
本格始動

2 Retail DX

AI STORE LAB
収益化

↓
新たな収益

SECURE

3 海外展開

韓国・ASEAN
への展開

↓
市場の拡大

これまでの取り組み < AI STORE LAB（無人店舗） >

SECURE

監視カメラシステムの応用で独自開発した無人店舗を新宿住友ビルにて実証中。
誰がどんな商品を手にとったかをAIが認識し、お会計は顔認証で手ぶら決済を実現。
コラボ第1弾 アットコスメ(20.7~21.3) 第2弾 小学館DIME(21.4~)

顔認証による入店・決済

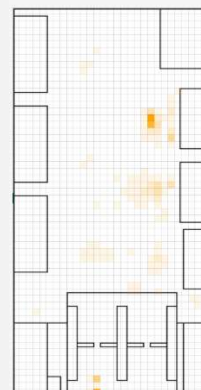


AI商品棚



手に取った商品を自動で認識し、AI商品棚にあるサイネージ上の買い物かごに表示される。またネット上の口コミ情報も自動的に表示される。

インストアアナリティクス



購入前の来店者の行動を定量化。「手に取って購入しなかった商品」の情報も分析可能。

たったの3ステップで、ちょっと未来のお買い物体験



入店方法は簡単

お買い物を始めるには、アプリに表示されるQRコードをかざすかクレジットカードをかざすだけ。

スムーズなお買い物

AIがカメラ映像を解析し、お買い上げの商品を判別します。プライバシーの配慮も対応します。

あとはお店を出るだけ！

お会計はレジに並ぶ必要はありません。退店するだけで会計が完了し、決済情報はアプリに送信されます。

セキュア、ミニストップ、NTT東日本、テルウェル東日本4社でミニストップ ポケットでの実証を開始。ウォークスルー型店舗の商用化を目指す



店舗写真



- ① QRコードをかざして入店 ② 商品を手に取る ③ そのまま退店

店舗利用イメージ

ウォークスルー型店舗のメリットと当社の特徴

顧客利便性の向上

- ✓ ウォークスルー型の購買形式によりレジ待ちの待機時間を抑制

店舗運営の効率化

- ✓ レジ人員の削減
- ✓ レジ設置が不要になることによる効率的な店舗空間の利用



導入コストの抑制

- ✓ カメラによる映像検知のみとすることで導入コストを削減（一般的なウォークスルー型店舗では重量センサーを使用）

- ✓ オフィスビルなど、リピート客で混雑しがちだが特定商品を素早く購入したいニーズのあるコンビニ店舗
- ✓ レジ待ちによる混雑が発生しがちなコンサート会場やスタジアムの物販シーンなどを意識した展開を継続

みずほPayPayドーム福岡に

完全ウォークスルー型レジレス店舗「HAWKS Smart Stand Powered by SECURE」3月28日オープン
～24台のネットワークカメラとAIが利用者の購買行動を検知・解析～



02

TOUCH TO GOの グループイン

- 01. 会社概要
- 02. TOUCH TO GOのグループイン
- 03. AI Store事業に関する成長戦略
- 04. Appendix

2019年に設立

無人決済システムの開発及びソリューションの提供を手掛ける

会社情報

| | |
|------|--------------------------------------|
| 会社名 | 株式会社 TOUCH TO GO |
| 所在地 | 東京都港区高輪2-21-42 TokyoYard Building 8F |
| 設立年 | 2019年7月1日 |
| 資本金 | 1億円 |
| 従業員数 | 60名 |

沿革

| | |
|-------|--|
| 2017年 | 無人決済店舗システムの実用化を目指し実証実験を始める |
| 2019年 | JR東日本スタートアップ(株)及びサインポスト(株)のJVによりカーブアウトスタートアップとして設立 |
| 2020年 | JR高輪ゲートウェイ駅に初の無人決済店舗TOUCH TO GOをオープン |
| 2025年 | 2025年2月～11月、JR East Business Development SEA Pte. Ltd.の支援を受け、国外進出第1号として、JTC Corporation (シンガポール政府企業) に「TTG-SENSE」を採用いただき実証実験を実施。 |

サービス導入事例



JR高輪ゲートウェイ駅 TOUCH TO GO



JTC Corporation
(シンガポール政府企業)



ミスタードーナツ
アトレ信濃町ショッ

導入顧客事例

 FamilyMart

 Tokyu Store


三越伊勢丹ホールディングス

LUMINE

BECK'S
COFFEE SHOP

最短4か月で無人決済店舗をオープン可能なソリューション TTG-SENSEを提供
顧客のニーズに応じたカスタマイズ性の高さと課題解決に向けた支援体制を構築

TOUCH TO GO提供ラインナップ



レジ2台 棚12本の例

◀ TTG-SENSE

棚1本から始められ
店舗区画に合わせて
自由にレイアウト設計可能な
次世代型・省人化スマートストア



◀ TTG-MONSTAR

「券売機」「セルフスキャンレジ」
「時間課金モード」の
1台3役のクラウドPOS型
セルフオーダー決済端末

TOUCH TO GO の特徴



無人化/省人化

レジ業務が一切不要で
人件費の削減可能



コールセンター

コールセンターから遠隔で
店舗監視、接客対応



簡易設置

ユニット化された筐体
を連結することで構成



ユーザーフレンドリー

アプリのダウンロードや
事前登録が不要
現金釣銭機の導入も可能

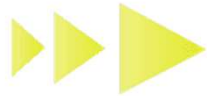


AI分析

顧客購買行動データの
取得及び分析により
店舗売上最大化を支援

会員登録不要で誰でも入店可能。AIカメラと重量センサーで手に取った商品を自動で認識し、レジに表示⇒スキャン不要で会計が可能

はい。 Enter from the gate.



とる。 Take the goods.



でる。 Touch to Go!

HAVE A NICE DAY



業績推移と主な導入実績

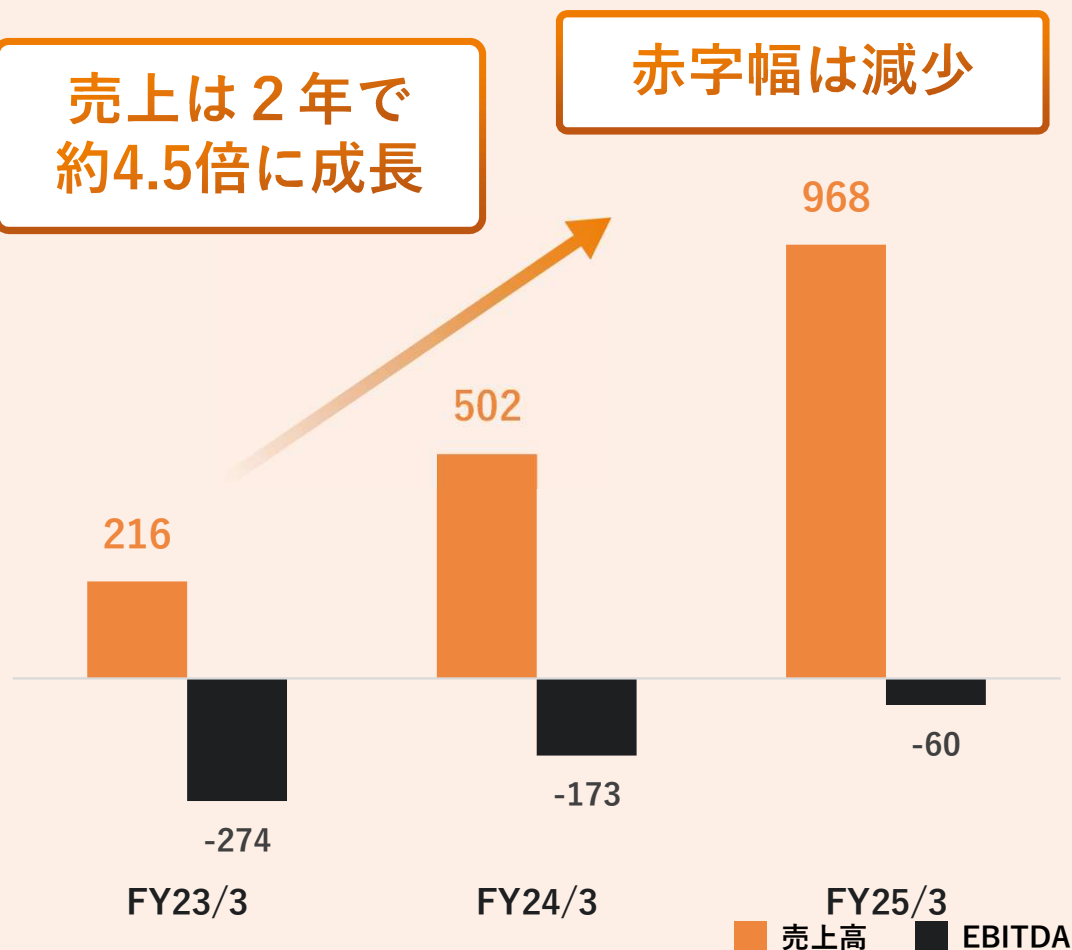
SECURE

創業以来売上高は非常に高成長を継続しており、EBITDAの黒字化も間近
技術を創る創業フェーズを終え、社会インフラとして普及・定着させる拡大フェーズへ移行

業績推移 (百万円)

売上は2年で
約4.5倍に成長

赤字幅は減少



主な導入実績 (実績は250店舗超)

株式会社ファミリーマート様

店舗名：ファミマ!! サピアタワー/S店
業種：小売業
導入設備：TTG-SENSE
導入開始：2021年3月～



株式会社東急ストア様

店舗名：toks中央林間駅ホーム店
業種：小売業
導入設備：TTG-SENSE
導入開始：2025年9月～



株式会社ルミネ様

店舗名：イイトルミネ/ニューマン高輪
一部ショップ
業種：不動産業
導入設備：TTG-MONSTAR
(飲食券売機/物販)
導入開始：2024年4月～



本取引における株主構成の変化

SECURE

JR東日本スタートアップ株式会社の保有する株式の一部、及びサインポスト株式会社、KDDI新規事業育成3号投資事業有限責任組合の保有する株式の全部を取得
当社、JR東日本、既存株主3社で共同してリテールDXを推進する方針

本件譲渡前

| 株主名 | 持分比率 |
|--|--------|
| JR東日本スタートアップ株式会社 | 37.4% |
| サインポスト株式会社 | 37.4% |
| 株式会社ファミリーマート 東芝テック株式会社 グローリー株式会社 KDDI新規事業育成3号投資事業有限責任組合 | 計25.2% |



本件譲渡後

| 株主名 | 持分比率 |
|--|--------|
| 株式会社セキュア | 56.2% |
| JR東日本スタートアップ株式会社 | 20.0% |
| 株式会社ファミリーマート 東芝テック株式会社 グローリー株式会社 | 計23.8% |

グループイン後は当社の連結子会社となる見通し

03

AI Store事業に関する 成長戦略

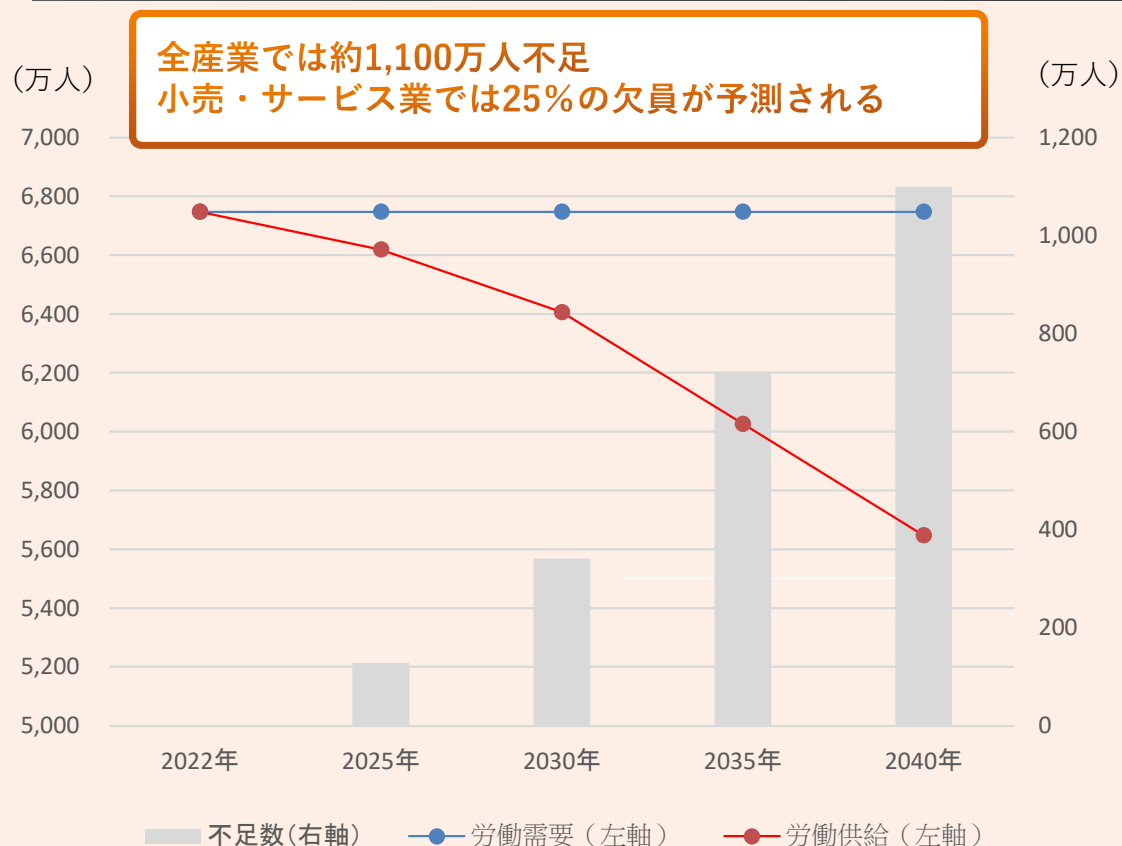
- 01. 会社概要
- 02. TOUCH TO GOのグループイン
- 03. AI Store事業に関する成長戦略
- 04. Appendix

小売業における課題と市場規模

SECURE

人手不足の恒常化により万引き被害が拡大する等、店舗運営を取り巻く課題は構造的に深刻化
こうした課題への対応策として、AIを活用したリテールDXの推進が不可欠

労働需給ギャップの推移（2022年～2040年）



万引き市場
年間被害額 **8,000億円**

小売業人件費総額推計
2024年 約**19兆円**

流通・小売のDX関連国内投資額見込
2030年度 **1,852億円** (CAGR 13.7%)

無人店舗向けソリューション市場
2027年度 **97億円** (CAGR 94.5%)

2026年初頭に無人店舗の先駆けだったAmazon GOの撤退が発表されているが、これには、日本と異なる米国の購買行動・労働市場・商習慣との相性も影響しているものと認識
無人店舗は“安心”“安全”という社会インフラに強く依存するビジネス

Amazon GO撤退から見る米国の事情

「**米国特有の市場環境との不適合**」が要因

「**無人店舗モデルの否定**」ではない

米国 イベント型 購買

- ◇週1回のまとめ買い、車移動前提
- ◇家族単位での長時間滞在
- ◇ウォルマートのような大型店舗

- 窃盗や強盗などの凶悪犯罪が多発
- スタジアムなどでの「少量購入」シーン
では無人店舗の導入が進む

【(NBA)ロサンゼルスクリッパーズ Intuit Domeなど】

日本固有の構造的必然性

不可逆的な人口動態、**深刻な人手不足**

無人店舗は「効率化施策」だけではなく
もはや「**インフラ維持のための手段**」

日本 日常 インフラ型 購買

- ◇徒歩・自転車での少量購入
- ◇短時間滞在が基本
- ◇成熟したコンビニ文化

- 自動販売機・無人販売の浸透
- 働き方改革と長時間営業のジレンマ

買い物文化の違い

【セキュア×TTG】で、各施設特性に応じた無人店舗モデルを展開し、持続的かつスケラブルな成長を果たし、圧倒的シェアNo.1を目指す

日本でスケールしやすい無人店舗の類型と想定されるマーケットポテンシャル（例）

限定シーン特化型店舗

オフィス/工場/病院/学校/
建設現場



病院：約8,000施設
大学：約800校
大規模オフィス
：約20,000施設
工場：約200,000施設

時間帯限定無人化店舗

夜間早朝だけ無人化/
日中は省人化



スーパーマーケット
：約23,000店
コンビニエンスストア
：約57,000店

小型・高回転型店舗

駅ナカ/省スペース/
自販機代替/イベント



鉄道の駅：約9,000駅
自販機：約2,600,000台
スタジアム：約300施設
（推計）
屋内アリーナ：約200施設
（推計）

SECURE



まずは早期に1,000店舗の導入を目指す

店舗の無人化・省人化とセキュリティ強化は、相互に切り離すことのできない表裏一体の課題
短期的にグループ資産活用によるTTGの赤字早期解消、中長期は収益モデルの進化を目指し
セキュアグループ全体の事業基盤強化と企業価値の最大化を図る

中長期成長ロードマップ

早期に1,000店舗導入を目指す

- TTG株主（JR東日本、ファミリーマート、東芝テック、グローリー）との強力なエコシステムを継続・深化

収益モデルのストック化

- クラウド型店舗管理システムなど月額システム利用を積上げ安定的な収益基盤を構築

無人化/省人化ソリューションのみではなく
高利益率な「店舗運営プラットフォーム」の構築で企業価値の最大化を図る

STEP 1 経営基盤の統合

グループ資産活用による
コスト削減と効率化

- セキュア全国規模ネットワーク
- 既存顧客へクロスセル
- 原価率の改善

→FY26/12での
TTG単独黒字化を目指す

STEP 2 市場の独占

AI Store×TTGのタッグで
圧倒的シェアNo 1を目指す

- スケールポイントの見極め
- 各施設に応じた店舗開発
- 日常インフラ型の浸透

→ストック収益の積上げ

STEP 3 収益モデルの進化

さらなるビジネスの積上げで
非連続な利益成長の実現

- AIデータ利活用でストック積上げ
- 「決済×セキュリティ」の融合
- 「社会インフラ」の地位を確立

→高利益率な
店舗プラットフォームの構築

04

Appendix

- 01. 会社概要
- 02. TOUCH TO GOのグループイン
- 03. AI Store事業に関する成長戦略
- 04. Appendix

店舗の無人化・省人化とセキュリティ強化は、相互に切り離すことのできない表裏一体の課題。強みの相互補完に加え、両社の技術・顧客基盤を活かしたクロスセルにより、売上拡大とコスト削減の両面で企業価値向上を図る。

AI セキュリティ

万引き削減



社内不正削減



カスハラ対策



AI & データ利活用

Store Analytics



データ連携・解析



マルチモーダルAI



TTGグループイン
により強化

無人化・省人化

AI STORE LAB



大規模
高単価

TTG-SENSE



TTG-MONSTAR



小規模
低単価